

令和 3 年 4 月 7 日現在

機関番号：23903

研究種目：基盤研究(C)（一般）

研究期間：2017～2020

課題番号：17K12220

研究課題名（和文）患者の回復生理過程を図式化した教材の開発と看護実践における検証

研究課題名（英文）Development of teaching materials that schematize the recovery physiology process of patients and verification in nursing practice

研究代表者

小田嶋 裕輝 (Odajima, Yuki)

名古屋市立大学・大学院看護学研究科・准教授

研究者番号：20707567

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 3,200,000円

研究成果の概要（和文）：本研究の目的は、看護実践の判断根拠となる患者の回復生理過程を図式化した教材を開発し、その有効性を検証することである。この教材の開発は、全科的な診療にあたる医師や、看護職に対してヒアリング結果と、国内外の文献レビュー結果を統合して行った。次に、看護教育プログラムの中で教材の有用性を検証した。その結果、本教材を用いることで看護を必要とする対象へのアセスメント能力が高まることなどが明らかとなった。

研究成果の学術的意義や社会的意義

患者への看護実践上の根拠となる回復生理過程を明らかにすることができた。また、医療職が数多くの対象と向き合う中で見出した回復生理過程の実践知から得られた示唆や、回復生理過程に関する国内外の文献検討を詳細に行った結果とを統合し、患者の回復生理過程と看護実践を統合・図式化した教材を示すことができた。また、開発した教材を看護実践の判断根拠として活用し、看護学教育において、その有効性を明らかにできた。

研究成果の概要（英文）：The purpose of this study is to develop teaching materials that diagram the recovery physiology process of patients, which is the basis for judgment of nursing practice, and to verify its effectiveness. The development of this teaching material was carried out by integrating the results of interviews with doctors and nurses who provide medical care in all departments and the results of literature reviews in Japan and overseas. Next, we verified the usefulness of the teaching materials in the nursing education program. As a result, it was clarified that the use of this teaching material enhances the assessment ability for subjects requiring nursing.

研究分野：臨床看護教育学

キーワード：回復生理過程 図式化 教材 教育プログラム 看護学教育

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

1. 研究開始当初の背景

病気とは回復過程である、と病気の性質を見て取ったのはナイチンゲールである¹⁾。医師・看護師は、患者と向き合ったその時から患者を回復生理過程におかなければならない。つまり、いかなる病気も「新鮮な空気、暖かい陽光、質のよい水、バランスのとれた食事、十分な睡眠、適度な運動、そして良好な人間関係」などの自然的・社会的外界と相互浸透させることによって乱れた内部環境を元の正常な状態に近づける必要がある²⁾。これらが大前提に病気の特殊性に応じた手術や薬物療法などの治療や看護が展開することにより治療・看護が最大の効果を発揮する²⁾。ところで、医師と看護師の専門性の違いに関して、医師はその治療を受ける対象の内部環境に直接働きかけるが、看護は対象の内部環境に直接働きかけることはできず、あくまで、対象の外部環境(五感覚器官)に働きかけることができるだけである³⁾。したがって、対象へのどのような生理的变化を目的として看護技術の提供をするかは、治療におけるそれほどには明白ではない。そこで、回復生理過程を看護師に意識できる形で整理し直すことは看護実践の根拠を提供するため、意義がある。

2. 研究の目的

看護教育機関や医療施設における看護実践の判断根拠として活用できる回復生理過程を可視化した教材の開発とその有効性の検証に向けて、患者の回復生理過程を構築する上で必要な示唆を得る目的で行う文献検討と内科系医師・看護師への調査から明らかにする、その結果を基に患者の病態生理が正常生理に移行する過渡期の回復生理過程を図式化した教材を開発する。開発した教材に基づく看護実践を行い、その有用性を検証することを目的とした。

3. 研究の方法

研究方法として、中規模の病院での全科的な診療にあたる医師や、看護職に対してヒアリングを行い、回復生理過程の図式化に関わる知見を得ることとした。次に、図式化のエビデンスを高めるために、国内外の文献レビューを行い看護学教育や看護継続教育における教材開発検証研究の動向を明らかにすることとした。次に、開発する教材を用いる思考場面を研究者間で検討することとした。その結果を踏まえ、教材を活用する場面として臨床推論を念頭に置き、看護教育において臨床推論力を高める介入研究の動向を明らかにした。以上の知見を踏まえ、回復生理過程の図式化を行った。教材の作成は糖尿病で行った。その有効性の検証は臨床で行うことが望ましいが、そのための手順として、まず看護学教育における有効性について知見を得た後で、看護継続教育での有効性を明らかにすることとした。有用性の検証は、1回90分、計5回から構成される教育プログラムを開発し、その中核に開発した教材を位置付けることにより行った。

4. 研究成果

全科的な診療にあたる医師や、看護職に対してヒアリングを行った結果、医師は膨大な医学的知見をベースとしながらも多様な症例を経験する中で、言語化しきれない経験知が蓄積されていることが示唆された。また、看護職も同様な状況であることが示唆された。

次に、図式化のエビデンスを高めるために、国内外の文献レビューを行い看護学教育や看護継続教育における教材開発検証研究の動向を明らかにした結果、教材は平面的に示すのではなく、変化の要素を取り入れることの重要性が示唆された。

次に、開発する教材を用いる思考場面を研究者間で検討した結果、現在、着目されている臨床推論で用いることができるのではないかと考え、看護教育において臨床推論力を高める介入研究の動向を明らかにした。その結果、臨床推論力を高める研究は日本人を対象としたものがなく、介入内容はシナリオに基づく事例検討のワークやシナリオに基づくシミュレーションの実施によるものが多いことが明らかとなった。

以上の知見を踏まえ、回復生理過程の図式化を行った。教材の作成は糖尿病で行った。その有効性の検証は臨床で行うことが望ましいが、そのための手順として、まず看護学教育における教材の有効性について知見を得た後で、看護継続教育での有効性を明らかにすることとした。そこで、この有用性の検証は、1回90分、計5回から構成される教育プログラムを開発し、その中核に開発した教材を位置付けることにより行った。開発した教育プログラムの実施の結果、臨床推論力が有意に高まることが明らかとなった。

また、教材そのものの効果を質的に検証した。その結果、看護過程の展開における教材の役割に関して、30コード、11サブカテゴリー、5カテゴリーが抽出され、<患者の内部環境のアセスメント力の向上><アセスメントから看護計画立案までの一貫した思考力の向上><今後起こりうる変化を組み込んだ看護計画の立案><病気と生活の両方に着目する思考力の向上><

看護展開するために必要な関連学習力の向上>のカテゴリーで構成された。教材の良い点・改善すべき点に関して、22 コード、9 サブカテゴリー、3 カテゴリーが抽出され、<病気のアセスメントに必要な情報提供><関連学習内容の明確化と既習内容の統合による病気の理解促進><病態理解を促す教材構成>のカテゴリーで構成された。

本教材により、患者の病気について、正常からの比較により異常な病態への変化一般を踏まえた看護過程の展開を促進できたと考える。今後は多様な教材で効果検証を行っていくことが課題である。

文献

- 1) ナイチンゲール著/湯楨ます他訳：看護覚え書 - 看護であること看護でないこと - ，現代社，13-20，2013.
- 2) 瀬江千史：「医学原論」講義（十） - 時代が求める医学の復権 - ，学城第 12 号，109-126，2015.
- 3) 薄井坦子監修：Module 方式による看護方法実習書，1-9，現代社，2004.

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計4件（うち査読付論文 4件/うち国際共著 0件/うちオープンアクセス 0件）

1. 著者名 小田嶋裕輝、古都昌子	4. 巻 21(1)
2. 論文標題 看護学教育・看護継続教育における教材開発検証研究の動向	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 日本看護医療学会雑誌	6. 最初と最後の頁 1-13
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 小田嶋裕輝、古都昌子	4. 巻 22(1)
2. 論文標題 看護学教育におけるClinical Reasoning ability(臨床推論力)を高めるための介入研究の動向	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 日本看護医療学会雑誌	6. 最初と最後の頁 23-37
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Yuki Odajima, Masako Furuichi	4. 巻 82(3)
2. 論文標題 Development and validation of a chronic disease nursing education program for enhancing clinical reasoning ability in undergraduate nursing students	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Nagoya Journal of Medical Science	6. 最初と最後の頁 399-405
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 小田嶋裕輝、古都昌子	4. 巻 22(2)
2. 論文標題 Effects of teaching materials for enhancing clinical reasoning in nursing education; A qualitative study	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 日本看護医療学会雑誌	6. 最初と最後の頁 12-19
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計3件（うち招待講演 0件 / うち国際学会 1件）

1. 発表者名 小田嶋裕輝, 古都昌子
2. 発表標題 慢性疾患患者の回復生理過程を図式化した教材の開発と検証
3. 学会等名 日本看護学教育学会第29回学術集会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Yuki Odajima, Masako Furuichi
2. 発表標題 The development and evaluation of a class program designed to improve the critical thinking capabilities of undergraduate nursing students
3. 学会等名 The 6th International Nursing Research Conference of World Academy of Nursing Science (国際学会)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 小田嶋裕輝, 古都昌子
2. 発表標題 看護学教育における臨床推論力を高めるための介入研究の動向
3. 学会等名 第40回日本看護科学学会学術集会
4. 発表年 2020年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	古都 昌子 (Furuichi Masako) (00602583)	鳥取看護大学・大学院看護学研究科・教授 (35102)	

6. 研究組織（つづき）

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	天野 薫 (Amano Kaoru) (90747833)	名古屋市立大学・看護学部・助教 (23903)	削除：2018年3月12日

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関